生ける水

聖霊による刷新のために

2022
秋季号
No.146

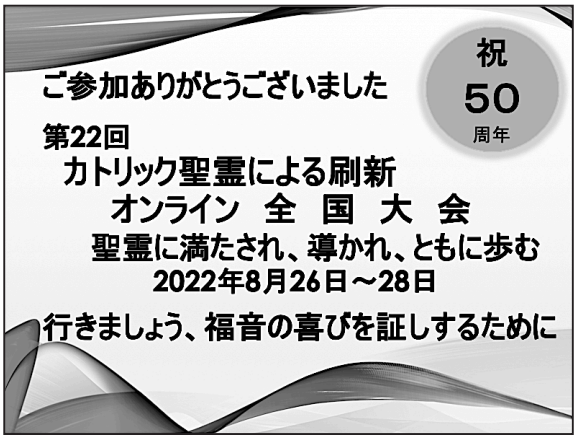
イエスは高波を超えて 私たち弟子のところに来られた

全国コムニオ奉仕会　コーディネーター　小熊晴代

「強い風が吹いて、湖は荒れ始めた。二十五ないし三十スタディオンばかり漕ぎ出したころ、イエスが湖の上を歩いて舟に近づいて来られるのを見て、彼らは恐れた。イエスは言われた。『わたしだ。恐れることはない。』そこで、彼らはイエスを舟に迎え入れようとした。すると間もなく、舟は目指す地に着いた」（ヨハネ6・18～21）。

3ヶ月前、閉め切った窓もすり抜ける猛暑をエアコンの力で制してPCに向かい、「聖霊による刷新という恵みの潮流が日本のカトリック教会に到来して50年という節目の年を祝う全国大会を3年ぶりに対面式で開催します、8月27～28日（土・日）に都ホテル尼崎でお待ちしています」と前回の夏季号でお伝えしました。今、開け放った窓から入る金木犀の花の香りに秋の訪れを感じながら、当初とは違う形で開催された第22回全国大会の祝福を主への賛美と感謝と共に振り返っています。

いつもの半分、定員一七〇名のささやかな全国大会。感染防止に気を配るホテルとの交渉も順調に進み、私自身も楽しみにしていました。コーディネーターの責任と役割はあるものの、今回は通訳の奉仕もなく、日常生活を離れ、上げ膳据え膳で清潔な部屋に宿泊し、参加する皆さんとの再会や新しい出会いを喜び合い、マスク着用でも共に主を賛美し、共にミサに与り、司式を務めてくださる酒井俊弘司教様（大阪教区補佐司教）には最新刊のご著書、『聖性への招き―ふつうのおばさん、おじさんも聖人に』（教友社）にサインをいただこう、と。



☆ 目　　次 ☆

「イエスは高波を超えて私たち弟子のところに来られた」（小熊晴代）…… 1
酒井俊弘司教様からのメッセージ …… 3
大会一日目に与えられた預言 …… 4
オンライン全国大会に参加して …… 5
（仙台・京野啓子／大阪・多田由理）
聖霊刷新の５０周年を振返って（その３）…… 7
わたしの聖霊体験（岡山・山下）
「さしあげられるものは」（名古屋・多田）
聖霊刷新と私（東京・吉野）
喜びの本の紹介 …… 11

発　行
聖霊による刷新
全国委員会

編集委員
中村友太郎
益田　薫

購読料（送料込み・年1600円）
購読申込み・振込み先
〒 141-0021
東京都品川区上大崎２丁目
10 － 34 － 2 － 312
聖霊による刷新全国委員会
Email: ikerumizu.livingwater@gmail.com
郵便振替　00190－1－18878
口座名　聖霊による刷新全国委員会

開催要項を6月下旬に公開すると、3週間で参加申込者は一二〇名に達しました。最初の聖霊降臨の時と同数だ、と喜んでいましたが、7月上旬にコロナ感染の第7波突入という政府の見解が発表されると、キャンセルが相次ぎました。ホテルへのキャンセル料金が発生する直前の8月3日にコアグループで祈り、対面からオンラインへの変更を決断しました。

当初のプログラムを8月26日～28日の三日間、各日2～3時間に組み直したのですが、すでにあるものを最大限活用できるように聖霊は準備しておられました。

第1部（金曜日夜）、「集められ、賛美と感謝を献げよう」をテーマに、毎月第2・4金曜日の夜にオンライン開催されている名古屋市の南山教会の祈りの集いを拡大する形で行われました。同教会所属の秋元伸介・恭子夫妻によるいつもながらの油注がれた賛美に続き、聖霊による刷新のオンラインイベントでは2度目の登場となる主任司祭のパヴォル・フィラデルフィ神父様（神言会）が御言葉を朗読し、それが私たちの心に深く根付いて成長するように講話を通して助けてくださいました。エゼキエル書37・1～7は、準備段階で聖霊からコアグループに示された、皆様よくご存知の「枯れた骨の復活」の預言です。パヴォル神父様は、歴史的背景に続いて「枯れた骨」が神から離れた結果である霊的死を表していると説明され、エゼキエルが神に命じられた通りの預言を発するに従って段階的に骨が生きるようになる様子を今の私たちにも当てはめて、3つの宿題を私たちに出されました。提出期限はありませんが、まだの方はぜひ聖霊先生と共に答えてみてください。①自分のどこが枯れた骨の谷のようか？　②何をすれば成長できるか？　③どれだけ枯れていても神は何でもおできになると信じることができるか？　続いて秋元夫妻が聖霊の働きと導きの証しとして、南山大学構内で行われていた「ふつうのおじさん、おばさん」の小さな祈りの集いがコロナの荒波に悩まされながらも現在の南山教会のオンライン祈りの集いになるまでの経緯を分かち合い、賛美と礼拝と御言葉の舟に乗って聖霊の声に従い続けることの大切さを伝えてくださいました。

第2部（土曜日午後）、「聖霊、神の恵みの奔流」をテーマに、日本に初めてキリストの福音をもたらした聖フランシスコ・ザビエルゆかりの地、鹿児島市のザビエル教会から、末吉卓也神父様（鹿児島教区）率いる祈りの集いグループがパイプオルガンやギターの音色に乗せて多彩な賛美の縦糸となり、そこに横糸が織り込まれるように、酒井司教様のメッセージと祝福（別項参照）、この50年の生き証人と言える中村友太郎氏による世界と日本における聖霊の働きの振り返り、科学と神について述べるという使命を生きる三田一郎終身助祭（東京教区）の証し、ブラジルの信仰共同体を通して神の慈しみを体験した小林美奈さん（名古屋教区信徒）の証し、御父の出現を受けたマザー・ウージェニアの証言を通して自らも変えられた末吉神父様の証しが分かち合われました。末吉神父様が紹介された著書、『御父の栄光のために生きる』を私が翌朝ネット検索したところ、出版元の聖母の騎士社サイトの売れ筋ランキングで1位になっていました。それまでの順位は分かりませんが、早速購入した参加者の方々がいたようです。

第3部（日曜日午後）、「遣わされ、福音の喜びを証ししよう」をテーマに、前半は毎月第4日曜日に東京都内で定例会を開いているユースグループに賛美と証しを託しました。尼崎市で開催されていれば実年齢30歳前後のリアルユース二人だけの参加でしたが、オンラインになったため、聖書の学びの指導とミサの司式をされているパウロ・ヤノチンスキー神父様（ドミニコ会）と修道者と信徒からなる年上サポーター団がいつもの

ように参加し、日本語と中国語の美しく若々しい賛美と証しを通して聖霊の臨在に私たちを招き入れてくれました。後半は再び名古屋市の秋元夫妻による賛美に引き継がれ、大阪市の池田教会から畠基幸神父様（御受難会）が年毎に深まる聖霊の満たしへの理解を分かち合い、新たな期待を抱いてそれぞれの場所にいる私たち一人一人を聖霊は時空を超えて触れて満たしてくださったと私は信頼しています。

この全国大会の参加者数は、複数名で参加されたケースを考慮すると、各日百五十～二百名と推定されます。9月末日までYouTubeで限定公開した動画は、各日とも再生回数が二百回を超えました。今後の課題として、案内や参加申込の方法の改善、ライブや録画でより見やすくする技術的操作の習得などがあります。

日本にコロナ禍が上陸して3年近く、感染者と感染による死者の数は波がやってくるたびに増え、第7波は最大級の高波でした。イエスはこの高波を通り抜け、荒れる湖の上を歩いてこの全国大会という舟に近づいて来られ、「聖霊に満たされ、導かれ、ともに歩む」という私たちの目指す地に導いてくださいました。さあ、陸に上がってイエスと共に歩みましょう。イエスは言われます、「わたしだ。恐れることはない」。

酒井俊弘司教様からのメッセージと祝福

酒井俊弘司教様

新型コロナウイルスは英語圏ではCOVID-19と呼ばれています。つまり二〇一九年から流行が始まり、もうすぐ丸3年となります。今年は、流行の波がおさまった際に様々な行事が「3年ぶりに…」と呼ばれて行われました。「カトリック聖霊による刷新全国大会」も今年こそは対面でと準備をされていましたが、残念ながらこうしてオンラインでの開催となりました。

このような状況ではありますが、皆さんが経験されてきたように、聖霊の働きはこの3年間止まっていたわけではありません。私は『生ける水』で拝見するだけですが、確かに聖霊は皆さんの中で働き続けておられました。昨日から始まったオンラインでの三日間の全国大会ですが、すでにたくさんの賛美と礼拝と証しがあったことでしょうし、今日も明日もあるでしょう。聖霊の豊かな注ぎを祈ります。

私自身もこの3年の間、たびたび聖霊の助けを感じました。自分の言葉ではなく、聖霊による言葉の持つ力を感じることがありました。ひとつだけ例をあげましょう。緊急事態宣言が発令されて公開ミサが中止になった中で、またウクライナへのロシアの軍事侵攻が起こってから、信者さんたちから「私たちには祈ることしかできないのでしょうか」と言われることがありました。そのたびに、聖霊がこう励ますことを私に促しました。「祈ることしかできない、のではなく、祈ることこそできる」。私たちには祈りという偉大な、すばらしい、かつ唯一の武器があります。それは私たちの祈りに力があるのではなく、私たちが祈るとき、それは「祈りなさい」という聖霊の勧めに応えることであるから。聖霊の勧めに素直にしたがうところに、神の力は豊かに働くからです。

教皇フランシスコは、先日水曜日に一般謁見で続けて来られた高齢者をテーマにした連続講話を終えられました。コロナ禍にあって、弱い立場として苦しんでいる高齢者を励まし続けた教皇様です。連続講話の最終回でこう話されました。

「わたしたちの全人生は、花と実をつけるように地中に蒔かれねばならない種のように思えます。…そして、復活した体の

いのちは、この世で味わってきたよりも、百倍、千倍以上も生き生きとするのです。（マルコ10・28－31）。

復活された主が、湖畔で使徒たちを待ちながら魚を焼かれ、使徒たちに振る舞われるのは偶然ではありません。この主の思いやりあふれる愛の行動は、わたしたちが向こう岸へ渡った時に何が待ち受けているのかを垣間見せてくれます。そうです。親愛なる兄弟姉妹の皆さん、特に高齢者の皆さん、人生の最高の時はこれからなのです。」（カトリック中央協議会暫定訳）

聖霊による刷新全国大会に参加される皆さんの上に、豊かな聖霊の注ぎを祈り、教皇様の祝福を皆さんに与えます。

全国大会一日目に与えられた預言から

① わたしの愛する子らよ、わたしが集めたわたしの民よ、今日あなたたちが聞いた言葉のように、わたしはエゼキエルに言った通り、あなたたちにもはっきり言う。

預言せよ、預言せよ、預言せよ。この国は今日あなたたちが聞いた言葉の通り、そこに住む人々は枯れた骨のようになってしまった。彼らはいかに表面を取り繕って豊かに暮らしていると見せても、彼らの心はただ虚ろ、空虚、荒野のようだ。

だからわたしの愛する子らよ、わたしはあなたたち一人ひとりをわたしの聖なる霊によって満たし、遣わそう。エゼキエルに語りかけ遣わしたように。

わたしの愛する子らよ、あなたたちの中には今の言葉に恐れ慄いて、わたしにはそのような力はない、一体何を語ればいいのか、と言っている者がいる。なぜわたしに聞かないのか。わたしはあなたたちの心に語る。

主よ、あなたがいつわたしに語ってくださっているのかわかりません、とつぶやくのはやめなさい。あなたたちが日々わたしの前に進み出て、わたしを賛美、礼拝するうちに、わたしとの交わりの中にも親しさを増していくなら、あなたたちはわたしと語り合うことができる。わたしはこの国にもわたしの言葉を語る者をもっと増やしたい。

あなたたちは勘違いしてはならない。人々の只中に立って、神は言われます、などと言わなくてもよい。あなたたちがわたしの手に導かれて日々遣わされ出会う人々との話しの中で、あなたたちはその人の心の悩み、痛み、苦しみを知り、わたしから慰め、励まし、力の言葉を聞いたら、そのように語ればよい。恐れることは何もない。わたしの手があなたたちの上に置かれているから。わたしの霊があなたたちを遣わすから。

② もうこの国では福音を宣べ伝えるのは困難だ、不可能に近いなどとつぶやく声は、わたしは聞き飽きた。なぜわたしの霊によって語ろうとしないのか。わたしはわたしの霊をあなたたち一人ひとりに豊かに注ぎ、あなたたちの口にわたしの言葉を上らせようとしている。口を閉じるな。わたしの言葉を語りなさい。恐れることはない。わたしが語らせるのだ。間違っていたらどうしようなどと考えるな。そのためにあなたたちは日々わたしの言葉を味わいなさい。あなたたちにはわたしの言葉が与えられているではないか。わたしが命じたことを行う民よ、わたしの霊に満たされて、この東の果てにある国の人々に、わたしの子ら、まだわたしを知らない子らに、わたしの言葉を語りなさい。愛をもって語りなさい。慈しみをもって語りなさい。決して裁いてはいけない。決して批判してはいけない。ただ愛をもって語りなさい。わたしの霊は、わたしをあなたたちに証しさせる。

③ あなたたちの中に、こんなにひどく傷つけられて、赦せない、と思っている人がいたら、『あなたが赦せないならわたしが赦す』と主はおっしゃっている。主の御手にその人を委ねましょう。この人面倒くさいなと思っている人がいたら、『あな

たが関わりにくいなら、わたしが関わる』と、おっしゃる主にその人を委ねましょう。

オンライン全国大会参加者の声から

（その1）仙台教区　京野　啓子

アバ・天のお父さん！

全国大会に参加できたことを感謝いたします。対面の大会でしたら、私は家庭の事情で参加することは出来ませんでした。それがオンラインでの開催となり、自由な時間に何度も心置きなく預かり、多くのお恵みをいただきました。2年半の間、オンラインでの賛美の祈りの機会がありましたが、大会での賛美と礼拝では、聖霊の臨在が豊かに満ち溢れ涙しました。いただいたお恵みを分かち合ってみたいと思います。

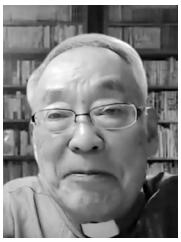
日本での聖霊刷新50年の歩みの報告、またそれぞれの証しは、聖霊がどのように導いてくださったか、その不思議な働きに驚き、また感動しました。三田助祭様、小林美奈さん、ユースの方々の証しはいずれも素晴らしいものでした。小林さんが書かれた証集を早速送っていただき、周りの人とも分かち合いました。

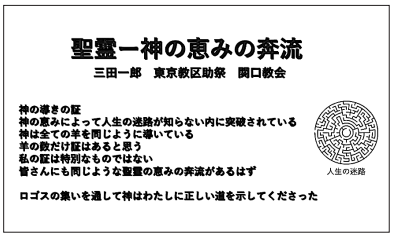
一日目、名古屋のパヴォル神父様の講話では、この国が今日、エゼキエル書の枯れた骨のようであることを示されました。自分の心もそうなりつつあったように思います。そして、ある兄弟を通して与えられた預言では希望を持ちました。「日々私の前に賛美、礼拝する交わりの中に親しさを増していくなら私と語り合うことができる。私の霊に導かれて私の言葉を語れ、愛を持って、いつくしみを持って。裁くな、批判してはならない。私の霊は、私を証しさせる。『預言します！』と言わなくとも、近所のおじさん、おばさんとして神様の言葉を語ることができる。」と。

二日目、末吉神父様の講話はマザー・ウージェニアを通して神から与えられたメッセージ『御父の栄光のために生きる』の本からでした。御父はマザーにお現れになりご自分が来られた目的を話されました。

神父様はこのメッセージを通してご自分が変わられた一つのことを証しされました。主イエスの御父への親しさを改めて感じ、ご自分もその想いをもって福音書を読むようになったと。

この本は手元にありましたので、もう一度改めてじっくり読んでみました。御父が来られた目的は、「1．私が創造した子どもたちが私に抱く過度の恐れを消し、私の子どもたち―現在と将来のすべての人類―から認められ、愛されることこそ私の喜びであることを彼らに理解してもらうために私は来た。2．人類と国々に希望をもたらすために私は来た。3．本当の私を知ってもらうために私は来た。父である私に対する人々の信頼と同時に愛が育つために。私が気にかけていることは一つだけ、すべての人を見守り、彼らを子





（上）三田一郎助祭の証
（中）証しする小林美奈さん
（下）ユースチームによる賛美

どもとして愛すること。画家は自分の作品を眺めることを無上の喜びとする。そして私は人々の中に来ることが喜びである。人は私が造った傑作だから。」

ただただ御父の人類に対する愛に圧倒されました！　御父はご自分を愛する以上に私たちを愛しておられると述べておられます。今が永遠の昔から予見され、待たれていた恵みの時であると。これは大会中での預言、「一度も経験したことのない喜びの生き方が来る」と一致しています。

三日目、畠神父様は聖霊の満たしについて説明してくださいました。「聖霊による洗礼は父と子と聖霊を新たに認識し、この三位一体の神と新たに交わるようになることです。『生きておられるキリストとの出会い』と聖ヨハネ・パウロ2世教皇がたびたび述べられています。」（『聖霊による洗礼』国際カトリック・カリスマ刷新奉仕会発行）また、とても大切なミサの意味を示してくださいました。ミサそのものがペンテコステに与ることである。新しい契約である「互いに愛し合う」は聖霊の恵みによると。これは貴重な教えとなりました。

50周年記念大会は、今まで頂いたお恵みを再認識する機会となり、また霊的にもう一度立ち上がり、前進する原動力をいただきました。神に感謝です！

大会参加者の声（その2）

高槻教会所属・多田由理

二〇一四年から熊本で聖霊刷新運動に参加するようになり、全国大会には「いつの日か参加できるといいなぁ！」と思っていた。昨年大阪に引っ越してきたときから楽しみにしていたが、二一年は中止、今年は宿泊者のみということで、残念に思っていたところに、オンライン開催になるというニュースが入ってきた。私の場合はオンラインでも土日開催となると参加しにくいので、このニュースも頭の片隅において置く程度にすぎなかったが、聖霊さまのお働きと人々の縁とによってフル参加がかない、体験記を書くことになるのだから、神さまを賛美して感謝せずにはいられない！

事の発端は石川神父さまの来日黙想会のお手伝いでCさんに出会ったことだ。とても御親切に、全国大会のZOOMに入りやすい形のメールを絶妙なタイミングでお届けくださったので、夫がテレビタイムに入った土曜の午後、一部参加することができた。中村先生のお話の途中くらいから三田助祭のお証しに続いて、素晴らしいオルガンによる黙想のあと、小林さんの力強いお証しを聞き、ZOOMを用いて人々の心の中に入り、魂に触れてくださる聖霊の風を感じた。翌日も、Cさんからの絶妙なメールに誘われて、途中からでしかも音声を聞くだけの参加だったが皆さんと賛美することができ、念願の全国大会に末席ながら参加させていただいたような気持ちでいて、これで終わるはずだった。

ところが、在熊のメンバーに依頼されたはずの原稿依頼がまわりまわって私のところに来たのである。私は上述のような参加の仕方だったので「書く資格はないのでは」と返信したところ、動画視聴をして原稿を書くことを提案され、あらためて、初日から三日間の動画を見直してこの原稿を書くことになったのだ！看終わって第一の感想は、感謝！感謝！感謝！であった。私は、いろいろなことを理由にして参加することを諦めていた。そんな私なのに、聖霊さまはたくさんの人たちとのつながりを用いてこの機会を与えてくださった。コロナが新しい時代を開き、新しい参加の仕方が可能になり、私は「動画視聴」という仕方で、今年の全国大会に出席することがかなったのである。

初日のパヴォル神父さまの聖書引用と最後の三つの問いかけは心かきたてられるものだった。原稿を頼まれた時はため息交じりだったが、そのため息が心潤される聖霊の風に変わっていくのがわかった。二日目の鹿児島

の賛美を視聴しながら、この原稿を書くきっかけとなったお手伝いを思いつつ、豊かに、広範囲に、人の思惑を大きく超えて働かれる聖霊の現存を感じ直させていただく時間になった。翌日の司教さまのお話と祝福、三人の方の証しから、コロナ禍であっても私たちを祈りに導く聖霊の促し、日本に及ぶ聖霊の長い年数に渡るお働き、ひとりの人の人生に不思議に働いて人々の働きを興していく聖霊の働きを学び直した。三日目のユースの賛美も感慨深いものだった。賛美の曲を中国語で歌ってくれた時は喜びではちきれそうになった。というのも私は以前中国に住んでいて、「聖霊刷新運動」なるものに触れるようになったきっかけは中国でもあったからだ。中国語で賛美し聖書を読む経験の中で、中国の方々は聖霊を「聖神」と呼んでいるのを知り、私はこの呼称が大好きだった。ユースの賛美の中で「聖神請祢浸透我」という中国語を久しぶりに耳にしたときは、それはまた一つの聖霊体験になった。三日分の動画視聴を通して、こんなにも聖霊の働きを感じさせていただけるとは、原稿を依頼された時には思ってもみなかったことだった。新しい時代のツールで、聖霊を感じ、ともに賛美し、聖霊が働く人々の営みを「画面越し」や「証し」を通して知り、互いの信仰が刷新されていくこの経験、また、それをこのように証しすることによって、神さまを賛美し、感謝させていただきたい。

聖霊による刷新五〇周年を振り返って（特集・その三）

わたしの聖霊体験

岡山県・水島教会　山下春憙

一九八五年、津山カトリック教会で行われた、岡山教会・津山教会共催の「聖霊による生活刷新セミナー」に妻と一緒に参加しました。

当時、清心女子高校3年の長女を筆頭に7人の子供を抱えて、事業に失敗し、仕事も家も土地も何もかもなくして、高知から岡山の山陽町（現在赤磐市）のネオポリス（大和ハウスの団地）に引っ越してきたばかりでした。知り合いもいなく、仕事の当てもない岡山に生活の地を選んだ理由はただ一つ、長女と次女が、岡山にある清心女子高校、清心中学に在学していたからです。7人の子供を育てる当ては何もなく、ただ神にすがるしかない状態でした。

聖霊セミナーは7週間続きました。毎日個人的に黙想をしながら、みんなで集まるのは週1回日曜日でした。5週目に「聖霊の満たし」を受けて、その後フォローアップの2週間、セミナーが続きます。「聖霊の満たし」というのは、信者は洗礼の時に確かに聖霊をいただきますが、まだ自我への執着が残っていて、十分にイエスに心を開いているとは限りません。聖霊が働きたくても働けない。それで5週間の準備の後、心を開いてイエスにすべてを委ね、聖霊に満たされるようにみんなで祈り合うのです。これが「聖霊の満たし」です。

満たしを既に受けている先輩達が、わたしたちの頭の上に手を置いて異言で祈ってくれました。最初は普通の言葉で祈り始め、それが次第に異言になり、大きなうねりになっていきました。ほとんどの人が感動のあまり、涙を流して、誰はばかることなく喜びを体で表現していました。けれども、わたしは何も感じません。聖霊はわたしを素通りして行ったのじゃないかな、と思いました。ちょっとがっかりしてその日は家に帰りました。

ところが、次の日の朝、5時ぐらいに、何かに促される思いで目がさめました。起きあがるや否や異言が飛び出してきて、体中が喜びであふれ、大きな声

で泣き崩れてしまいました。それから3日後だったでしょうか、イエスの胸もとに頭をうずめて祈っていました。祈るというより、イエスの胸の中で休んでいたのです。そのとき、イエスの中に吸い込まれていき、神の愛のるつぼの中に投げ込まれたかのように感じました。この瞬間、思わず「お父さん」という言葉が出てきたのです。「お父さん」という言葉はわたしにはなかなか言えない言葉でした。わたしの父は、アルコール依存症で朝からお酒を飲んで、仕事もろくにしないで、母をどれほど苦しめたかわからない。わたしは、小さい時から、親父なんかいない方がいい、と思っていました。こんな父親のもとに生まれてきたことを恨んでいました。思わず「お父さん」という言葉が出てきたときは、本当にびっくりしました。その瞬間に、幼い時の苦しかったこと、そういう親父を与えられたこと、そんな家庭に生まれたこと、など、みんな良くなったのです。そのとき、父を本当に赦すことができたのじゃないか。過ぎ去ったいろいろな苦しかったときにも、イエスがそばにいてくださったのだ、とそのとき悟ったのです。この父で良かったのだ。この家族に生まれてよかったのだ。ほんとに全部良くなってしまいました。その時以来、うれしくって、うれしくって車の運転をしても大きな声を出して異言で祈っていました。その喜びは一年位続いたでしょうか。ミサに与かっては涙を流していました。本当に周りの世界がまるっきり変わったかのような感じでした。

「聖霊の満たし」の後、岡山教会で行われていた「祈りの集い」に毎週参加したことや、小林有方元仙台司教や一九七二年、日本に初めて聖霊刷新を伝えてくれたシスターステファンとの出会いやマカレア神父との再会などいろいろな人々を通してより深い聖霊体験に導かれていきました。

もう一つの決定的な聖霊体験は、「聖霊の満たし」のほぼ10年後、岡山の檣灯（しょうとう）センターで行われたマリッジエンカウンターのレトルノに夫婦で参加していた時のことです。レトルノとはマリッジエンカウンターを体験した夫婦が、さらにその絆を深めるためのフォローアップの集いです。テーマは御父、御子、聖霊で、二泊三日でそれぞれのテーマを司祭の指導を受けながら、夫婦で分かち合うのです。三日目のテーマが聖霊、ちょうどその日は聖霊降臨の大祝日でした。二人で、小聖堂で祈っていると、次第に異言の祈りに導かれ、それが大きな叫びになりました。雷のように聖霊が降ってきて、心臓が止まるかと思われるほどのショックをうけました。

その後、わたしの仕事は印刷関係から、病院勤務になりました。病院を定年退職後、スピリチュアルケアの研修を経て、一般病院で7年間スピリチュアルケアの専門職として働きました。

聖霊はこれらの体験を通して「イエスの霊におけるとりなし」に導きました。教会における「祈りの集い」はもう30年続いています。特に、二〇〇八年からインターネットのスカイプを使って、オンラインで「とりなしの祈りの集い」を始めました。初めは週4回、2時間の祈り。今は週3回、各地からオンラインで集まって祈っています。もう14年間続いています。

現在わたしは89才。とりなしの祈りは、わたしの人生の最後の福音宣教になるでしょう。神に栄光！

：┃：┃：┃：┃：┃：┃：

『さしあげられるものは』

名古屋教区　平針教会

多田めぐみ（旧姓　院去）

大学時代、イエズス会士故マシー神父様より洗礼を受け、三十三年の年月が過ぎました。師の導きは「御言葉を読み、沈黙しそれを味わう」という、ごくシンプルなものでしたが、私

にとってはその時間がかけがえのないものであり、「これこそが求めていたもの」と思うようになった、特別な時間でした。受洗後もマシー師と学生たちの集う「木曜会」で信仰を養われ、東京四谷の集いで翌年秋には聖霊の満たしを頂いたのでした。満たしの祈りの中で感じた、滝のように自分に注ぎ込む愛の感覚は、今でも思い出すことができます。

木曜会で出会った夫と結婚し、数年後名古屋に引っ越し。しばらくはロゴスセンターで行われていた刷新の集いに細々と参加させて頂いておりましたが、五人の子どもを次々に授かったことや、自分たちの識別の未熟さ故に参加し続けることが出来ず、随分長い間聖霊刷新から離れておりました。

そうした中でも家族の祈りだけは続けようと、毎晩御言葉の上に祈り分かち合う時間は必ず持つようにし、主日のミサも欠かさず行き続けておりました。コロナまん延の中、名古屋の刷新の集いのメンバーである服部さんから「南山教会の秋元さんたちが、福者カルロ・アクーティスの収集した御聖体の奇跡の展示会をやっているのだけれど、私たちの平針教会でも出来ないだろうか」と、当時教会委員長をしていた夫にお話がありました。

十六歳という若さで亡くなりながら、御聖体を心から大切にし、他者への愛と奉仕に献身し、得意のインターネットを使って歴史上の御聖体の奇跡の資料を集めたカルロ・アクーティスについて知った私は大きな衝撃を受け、数々の奇跡はもちろんですが、カルロ自身の神様への愛の深さとその行いに大いに励まされたのです。

危険性を感じさせるネットも、使う者の愛の心によって、有益な道具になり得るということを教えられ、これまで漠然と「神様の為に働くには何をすれば?」と感じていたことに対する答えを与えられたように思ったのです。

Youtube番組QR

「使徒言行録」の中でペトロが「金銀はわたしにはないが、あるものをあげよう」と言うところがあります。私自身が他者にさしあげられるもの、それはマシー師から始まり、常に「御言葉の上に祈り、頂いた恵みを分かち合う」という中で育まれてきた信仰の喜び。それに尽きるのだということを強く感じたのです。そして、その思いを行動に移し、二〇二一年三月にYoutubeで「カトリック一信徒の御言葉の分かち合いチャンネル」を始めました。

番組の目的は、各所属教会で「御言葉の分かち合い」の場が生まれること。喜びを持って互いの信仰を助け合い育て合う為の一助となればと、祈りながら製作しております。視聴者の方々が「自分たちもやってみよう」と思うようになって頂けたら・・・と主の導きを願っていたところ、ふと「聖霊刷新の方々にもご視聴頂けないだろうか」という思いが浮かび、調べているうちに全国大会の存在に気づいたのでした。

大会を視聴させていただく中で、再び聖霊の川の流れに浸して頂いたような思いを感じ、また三日間の大会後は、中村友太郎先生のご厚意により郵送頂いた「生ける水」のバックナンバー、過去の大会の動画、高浜

氏訳小熊氏監訳の本を買い求めて読むなど、これまでの四半世紀を怒涛のように埋め尽くすかのような聖霊の御働きを感じ、頭と心を追いつかせるのが困難なほどです。

大会一日目の秋元氏を通しての預言「恐れるな、語り続けよ。」私という小さな存在を主が用いてくださり、主の愛を告げることが出来るなら大きな喜びです。聖霊の助けを頂きながら、継続の力を頂きたいと思っています。ご視聴頂けますと嬉しいです！

聖霊による刷新と私
～主は共にいてくださる～

東京・四谷祈りの集い　吉野和香子

結婚を機に吉祥寺教会に転入し、そこで学生時代に母教会で一緒に活動していた友人に8年振りに再会しました。当時の私は、結婚での急な環境の変化に戸惑う日々を過ごしていました。久しぶりに再会した友人は、私の様子を見て今抱えている問題を相談してみるといいよと言って、プロテスタントの信者（後にカトリックに改宗）の方を紹介してくれました。その方は、日本にカリスマ刷新が入ってきた当初から関わっていた方で、お会いし少し話をしてから「ぜひ行ってみて」と四谷祈りの集いを紹介して下さいました。私はその方が直接何か私の力になってくれるものと思っていたので、集いを紹介された時は私との関わりを拒絶されたような気がして素直に集いに行く気になりませんでした。ですが、1年ほどたって先の再会した友人と他の友人に誘われて成り行きで一緒に行くことになりました。私は相変わらず、心身共に大変沈んだ状態で1年前よりも更に酷く、心身が恐れに包まれているような状態でした。

その後集いで、「聖霊による生活刷新セミナー」があることを知り、友人と一緒に参加することにしました。参加を決めた理由は、「いつまでも沈んだ状態ではいられない。絶対に変わりたい。結婚前の元気な状態に戻りたい」と強く思ったからでした。それまでの信仰生活は、祈りの習慣はほとんどなく、家族の中で私だけが信者で、結婚してからはごくたまにミサにあずかる程度でした。セミナー中は、私なりに真剣に取り組みました。毎日テキストにそって御言葉を読み、15分間沈黙の祈りをしました。「これさえすれば絶対に変われる」その思いが私を支えていたように思います。でもいざ自分の番がきて満たしの祈りをする時、私はやっぱりだめだという思いが強まりました。しかし、愛の源である主は、私に深い憐れみをしめしてくださいました。祈られている時、私の固く閉ざした心を温かいものが勢いよく流れ音は聞こえませんが、グワーンと心が開かれたような気がしました。涙と鼻水があまりにも止まらなくてどうしようかと思いました。帰り道最寄り駅から自宅に向かう途中、自転車をこぎながらうれしくて、うれしくて喜びが溢れてきたのを覚えています。それからは、この喜びを自分の中だけにしまっておくのではなく、他の方に伝えたいと強く思い、集いで奉仕をするようになりました。集いの準備や後片付け、セミナーや大会の奉仕をしました。

ある日、集いのメンバーと奉仕をする前に一緒に祈っていると、お互いに心の底から喜びが溢れてくるのを感じました。主が共にいてくださっている喜びを仲間と一緒に体験することができました。賛美をしている時も、皆と心を合わせて賛美をしていると喜びが溢れてきました。四谷の集いで、皆で心を合わせて主に向かって心からの賛美を捧げることは本当に素晴らしいものでした。あの賛美の喜び、恵みあの体験は本当に何にもかえがたい主からいただいた恵み、宝だと思います。

主からいただいた喜びは、私の中から溢れだし、信者でなかった家族（姉、夫）、友人も信仰の恵みをいただきました。姉

と夫は、聖霊の満たしの恵みもいただきました。その後出産、育児で3年ほど集いを離れましたが、夫の協力でまた集いに参加し、奉仕を続けることができました。聖霊の満たしの強烈な感動がいつまでも私の心を満たし原動力となっていたと感じます。

その後、コロナ禍で対面での集いができなくなりました。そんな中で、集いのメンバーにオンラインで集いをしてほしいと言われました。当初は、すぐにまた対面での集いが再開できるのではと思っていたのですが、先の見えない状況の中で、メンバーの要望に応えてとにかくやってみようと思いました。私はそれまでオンラインの経験がないばかりかアプリの名前すら知りませんでしたが、わからないことは調べながら、そして何より主に祈りながら、一つ一つ手探りで始めました。操作ミスや知識や経験の不足から失敗も多々ありますが、主に祈り、相談しながら続けています。オンラインの賛美を通して、主に祈り与えられたと思った御言葉があります。オンライン賛美を続ける力となっていると感じますので、ここに記します。

あなたがたは、朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変わることのない生きた言葉によって新たに生まれたのです。こう言われているからです。「人は皆、草のようで、その華やかさはすべて、草の花のようだ。草は枯れ、花は散る。しかし、主の言葉は永遠に変わることがない。」これこそ、あなたがたに福音として告げ知らされた言葉なのです。

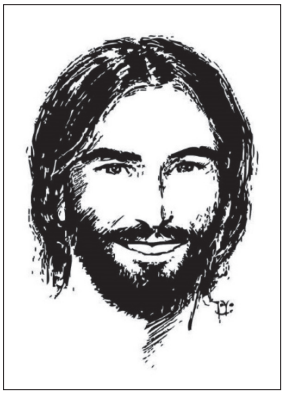
（一ペトロ1・23～25）

すべては主に栄光を帰すものとなりますように。主に賛美と感謝。

「喜び」をテーマとした刊行物のご紹介

この本では、たとえば、「ユーモアのないキリスト者、すなわち、いかめしい顔つきで、手厳しい、笑わない、禁欲的で、快活であることを異端的ととらえるようなタイプの人ほどに魅力のないものはありません。しかもそれは健全なキリスト教ではありません。二番目に重要な『霊の結ぶ実』（ガラテヤ5・22）は喜びで、この霊の結ぶ実に満ちていたイエスは、御父の御国について教えるのにユーモアを知恵とともに用いられました」と教えています。

要するに、聖霊刷新関係者のみならず全てのカトリック信徒におすすめできる本なのですが、これまでフィオ神父が日本で教えてくださったことの復習にもなる本で、たとえば、二〇一七年の45周年記念全国大会（テーマ：聖霊を受けて輝きなさい）でのフィオ神父の教えのエッセンス（「霊に燃えて」）も付録



①『笑うイエス―人間イエスを新鮮な目で見る―』（フィオ神父著、高浜武則訳）

この本（A5版103p）の序文で、インドのカトリック聖書研究所のレヌ・リタ・シルヴァノ博士は、「この本が大人だけでなく現代の多くの若者にとって、一般信徒と修道者と聖職者にとって気持ちよく目を開かせるものとなることを私は信じています。この本は私たちをそのユーモアで爽やかな気分にし、その洞察で励まし、神のより大きな栄光のために私たち自身が『知恵と、神と人からの愛』において成長するのを助けてくれるでしょう」と書いています。

1に掲載されています。

この本は税抜き千百円で、入手先は「いつくしみセンターWEBショップ」もしくは鹿児島のザビエル書院です。

②『いつも喜び！　絶望から天国へ』

小林美奈さんがブラジルで体験した神の御業をまとめた証し集（A4版40pカラー、ポルトガル語併記）で、二〇二〇年十二月にできあがりました。寝たきりで何もできなかった小林さんはブラジルを訪問して癒され、大きく変えられ、自分らしく生きることができるようになりました。

この本を読まれた方々から、「聖霊様の働きを感じ喜びが伝わりました」、「コロナ禍でどこにも行けず気持ちが落ちてしまっていたけれど、とても元気になり励まされました」、「何度も何度も読み返しました。その度に喜びが伝わってきました」、「本を読んだ後もずっと涙が溢れてきました」、「生きた体験の証しこそ今の時代の希望ですね」など多くの嬉しい声が届いているそうです。問い合わせ先は mariamina@mediacat.ne.jp（小林美奈）です。

③『主に賛美（二〇一六増補版）』

四谷祈りの集いで長年使ってきた歌集の増補版（A5版202p）で、三百近い賛美の歌が掲載されています。まだ一〇〇部くらいの在庫がありますので、一部千円（送料別）でお分けします。ご希望の方は、charispress3@gmail.com（高浜武則）宛てにお申込みください。

〔編　集　後　記〕

8月末のオンラインによる全国大会のあと、大会においても積極的な賛美の奉仕で活躍されたユースチームによる集いが10月8日から10日までの三日間、開催されました。その報告と証しについては本誌の次号に掲載させていただく予定です。

その他、夏の大会以後に全国の祈りの集いの皆様のもとで新たに生まれてきた動向についての証しなどありましたら、年内クリスマス頃までにご寄稿いただければ幸いです。